

創 樹



発行：社会福祉法人 創樹会
福山六方学園

〒720-0832
広島県福山市水呑町187番地
TEL(084)956-0255
FAX(084)956-5749
fukuyamaroppou@soujukai-fukuroku.or.jp
<http://soujukai-fukuroku.or.jp>

題字は蒼心書道会会長 田中蘆雪さん



新 年 度 を 迎 え て

社会福祉法人 創樹会 福山六方学園 統括園長 西山 堅太郎

福山六方学園の周りも桜が散り、若芽の萌えるすがすがしい姿になりました。

昨年度は、新制度への移行3年目を迎えて安定的な運営が見え始めた矢先でしたが、夏の連立新政権誕生により「障害者自立支援法」廃止と「障がい者総合福祉法(仮称)」制定が示され、再び不安定な時代を迎えることとなりました。しかし、福山六方学園ではあゆみ死成人寮に続いて福山六方学園(児童園)の施設整備も完了しましたし、多くの皆さんのお支えで「福山六方学園設立50周年事業」を無事終えることができました。また、日ごろの創作活動の中からパリでのアール・ブリュット・ジャポネ展(2011年1月まで)への出展と作者の開会式参加の実現は画期的なものとして園史に残る嬉しい出来事でした。

今年度も新たに8名のスタッフを迎えましたので、利用する人たちが人として尊ばれる福山六方学園を目指して、新しい地域生活に向けた事業を計画・展開し、元気とメリハリのある運営に務めたいと次のように語りました。「心のつながるスタッフのリレーで、一人の人が支援され続けることが大切です」そのためには、「私たちの取り組む姿勢 職員の行動基準」と「職員倫理綱領」を熟読・理解し職務を遂行してもらいたい。また、与えられた行動規範ではなく、自分たちが作り上げたと自負がもてる規範に高めて欲しい。

また、「仕事はチームですもの チームワークは明るいあいさつから」新DNA「できることから始めよう、納得の行く仕事をしよう、遊び心のある提案と計画を」を持ち、「嬉しいサービス」の実現に向け進みましょう。そして「障害者虐待防止法」「障害者差別禁止法」「障害者権利条約」の学習と日々の実践を通して「利用者主体」の理念を浸透させてもらいたい。創設51年目を皮切りに、全スタッフが真摯な態度で、元気に挑戦することを期待します。「恕のこころを大切に！」と。

今年度も変らないご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

リフレッシュ旅行in大阪

3月18日、19日に大阪へ一泊二日のリフレッシュ旅行へ行ってきました！12名の団体旅行でしたが、新幹線に地下鉄と、普段あまり経験することのできない交通機関も、なんなく乗り継いで、最初に向かったのは、大阪名物なんばグランド花月。ここで漫才と新喜劇を楽しみました。さすが笑いの聖地大阪。会場は笑いで溢れており、テンポの早いボケ&ツッコミに皆さんもくぎづけでした。宿泊先はUSJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)に隣接しているホテルで、夜にはライトアップされたパークを見ながら、自由な時間を過ごしました。そして2日目。いざ、USJへ！…と思いきや、ものすごい人の多さに皆で唖然！でもそんなことおかまいなしで、ジョーズやスパイダーマンといった迫力満点のアトラクションにも挑戦し、しっかりUSJを満喫しました。もちろんお土産も忘れずに、自分の欲しい物や家族への贈り物をじっくり選んで買うことができました。

この2日間、ただただ笑って、とっても楽しい時間を過ごすことができました。そして、皆さんの「楽しかった！また行こうな！」の声が聞けたことが、何よりの喜びです。



さくらまつり



2010年4月4日(日)『さくらまつり』を企画しました山田恭子です。

お花見と言えば福山六方学園…と、地域の方には有名な素晴らしい桜を、福山中の方にお知らせしたい。そして、美しい桜を眺める中で、大人も子どもも色々な方と交流が持てれば、お互いの気持ちに線を引いたり、一人で気持ちを抱えたりすること無く、お互いを認めあえる生活が出来る様になるのではないかと。子どもを持つ親としても知りたい事、思う事、子ども達に伝えたい事がたくさんでした。

しかし、私達も知らない事だらけです。この機会にさくらまつりに参加して下さる方々と共に、福山六方学園さんには、生き生きと生活されている素敵な仲間がたくさんいる事を感じ、伝えたいと思いました。

準備をする中で、園長先生、職員の皆様、家族会の皆様には、たくさんのご協力を頂き、そして皆さんの優しさをいただきました。福山六方学園さんを訪問する度に、皆さんの気持ちのいい挨拶に元気をいただき『一人ひとりが地球の宝物。あなたはあなたのままで完璧です。』と、言葉ではなく、気持ちで毎回慰めて貰った気がします。お陰様で『さくらまつり』当日は晴天の中、桜も満開で、たくさんの方にお越しいただき、訪れた方々から、素晴らしい場所だ、素晴らしい日だと嬉しい言葉もたくさん頂戴致しました。

50年前(福山六方学園創設時)に桜を植えた中の一人、と言われるご婦人の参加もあり、足を運んで下さったのが本当に嬉しかったです。さくらまつりをきっかけに初めての方も含め、多くの方が福山六方学園を訪れてくださり、共に時間を過ごせたことが、お互いの理解を深める一歩になれば嬉しく思います。

最後になりますが、福山六方学園さんのご協力のもとに、さくらまつりを企画・開催できましたこと、心から感謝いたしております。また、短い間でしたが私達も成長できたかと思っております。

園長先生、職員の皆さま、家族会の皆様、そして素敵な仲間…みなさんありがとうございました。

さくらまつり実行委員会 山田恭子・後藤貴代・藤川景子



新人紹介

4月からあゆみ苑成人寮で仕事をしております、山下和朗です。まだまだわからないことばかりの毎日ですが、それでも1日1日を大切に、少しでも利用者さんのためになるよう努力していきます。
よろしくお祈りします。



4月からあゆみ苑でお世話になっております、平山幸美です。利用者の皆様が、毎日を生き生きと過ごせるよう頑張っていきます。
よろしくお祈り致します。



4月からヘルパーステーションあしすとに入りました、澤江紋香です。利用者の方や職員の皆さんと信頼関係が築けるよう、少しずつ頑張っていこうと思います。
よろしくお祈りします。



サポートセンター友の家で働かせていただくことになりました濱野芳貴です。毎日新しいことばかりで様々な事を学び、勉強させていただいています。
1日1日を大切に努力していきますのでよろしくお祈り致します。



4月から児童園で仕事をしています岡本悠佑です。仕事を始めて1ヶ月が過ぎて、利用者さんともコミュニケーションが取れるようになっていぶ慣れてきました。まだまだ解らないこともたくさんありますが、少しでも利用者さんの将来に繋がる支援ができたらと考えています。



さわらびでお世話になっている多田です。まずは、一人ひとりの利用者の方のを知っていきたいです。そして、皆さんと楽しく笑顔で過ごしたいと思えます。



新しい職場で、とまどう事の多い毎日ですが、笑顔を忘れず、マイペースで頑張りたいと思います。
よろしくお祈りします。
畑山公子



はじめまして、下川原浩です。以前も福祉施設で送迎をしていました。利用者の方と接する中で学ぶことが多く、引き続きこの仕事に就きたく思いました。
これからも利用者さんを安全に送迎していきますのでよろしくお祈りします。



今年の学園周辺の桜の花は、満開になってから気温が上がらなかったためか淡いピンクのトンネルが例年より長い間でき、行きかうみんなを楽しませてくれました。

桜の満開と前後して今年度新採用の職員が、それぞれの事業所に配属され一ヶ月あまりが経過しました。新任職員にとっては、緊張と期待の入り混じった日々が続いていることと思いますが、これからそれぞれの配属場所で一人ひとりがどんな新しい風を吹かせてくれるのだろうか楽しみに期待しております。

第40回 園遊会 4/29

暖かな陽気と共に迎えた園遊会も今年で40回目となりました。天候にも恵まれ、およそ600人の方にお越しいただき、賑やかなものになりました。

嬉しい事に、どんぐりの会、水呑女性会、向丘中学校のプラスバンド他、各学校や団体、今年はより多くのボランティアさんに協力いただき、感謝いたしております。

利用者のみなさん、ご家族、地域の方々、ご来場いただいた皆様が園遊会で楽しいひと時をお過ごしいただき、スタッフ一同、嬉しい限りです。



この度の園遊会で、一家族との出会いがありました。30代前半と思われる夫妻と1歳前後の子どもの3人家族で、お父さんが子どもを抱いて学園の坂を登っているところでした。水呑町には、1年程前に越して来たばかりでした。

園遊会はもちろんの事、福山六方学園がどういふ所かも知らないけれど、「子どもが産まれた事で楽しませてやりたい」という気持ちで、学園に向かわれているところでした。

園遊会は、日頃お世話になっている地域の方々への感謝の気持ちを示すとともに学園の事を少しでも知って頂こうという思いから始まりました。

ここ数年水呑町には、新たに移り住むという人も多く、50周年を迎えた福山六方学園を知らない人が増えつつあります。こうした新しい人たちにも園遊会を通して、知的な障がいのある人たちの事、福山六方学園の事、それを受け入れて下さっている温かい水呑町の事を知っていただく為にも、これからも園遊会を続けていきたいとスタッフ一同、願っております。

福祉車両・施設整備資金 ご寄贈のお知らせ



「日産キャラバン」



「三菱ekワゴン」

日本財団様より、「2009年度福祉車両配備事業」を受け、あゆみ苑成人寮に「三菱ekワゴン」(助手席ムービングシート仕様)が、また福山六方学園に「日産キャラバン」10人乗りがやってきました。
新しい車両のおかげで、通院や外出時も快適で、特別支援学校や日中一時支援事業の送迎がスムーズになりました。
ご寄付をいただきました日本財団様にお礼申し上げます。

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会様より、「みなみの障がい児施設助成金」2次募集を受け、56万円をいただき、「知的障害児施設福山六方学園」と「障害者支援施設あゆみ苑成人寮」をつなぐ避難通路工事をさせていただきました。



災害時に特に行動障がいのある方など別建物内に避難する方が安全ということもあり、バリアフリーで安全な避難通路の完成により、速やかに避難することが可能になりました。

ご寄付をいただきました善意ある皆様及び社会福祉法人大阪府社会福祉協議会様にお礼申し上げます。

ありがとうございました(2010年1月1日~2010年5月10日)

※お名前・グループ名のみ紹介し、お礼にかえさせていただきます。(敬称略・順不同)
※保護者・職員については記載していませんので、ご了承ください。

ご寄附・ご寄贈

- ・川口東福祉を高める会、川口東女性会
- ・さをり工房ゆう
- ・福山手をつなぐ育成会施設部会
- ・国石 多代子
- ・佐藤 勝春
- ・榎 敬子

ボランティア

- ・備後荒神神楽(神楽奉納)
- ・どんぐりの会(清掃作業)
- 園遊会…福山市立女子短期大学、福山平成大学、中国学園大学、福山福祉と動物専門学校、どんぐりの会、水呑女性会、福山市レクリエーション協会、塩出朗、横溝真文 計46名

実習生・交流

保育士	2月	順正短期大学	1名
		中国学園大学	2名
		福山市立女子短期大学	5名
社会福祉士	3月	広島文化女子短期大学	2名
		比治山大学短期大学部	5名
		穴吹学園	1名
体験実習	3月	広島福祉専門学校	1名
		広島福祉専門学校	1名
体験実習	3月	広島文教女子大学	1名

施設見学

- ・さをり工房ゆう
- ・福山手をつなぐ育成会施設部会
- ・川口東福祉を高める会、川口東女性会

あしあと&今後の予定

2010

- ・5月 連休帰省
GH+CH交流会
ふうりんの集い
親善球技大会
6月後半 リフレッシュ旅行予定 【友の家】
- ・5月15日 バーベキュー 【さくら・ふきのとう】
- ・5月22日 しらはぎ祭 【さわらび】
- ・6月5日 沼隈特別支援学校運動会 【児童園】
- ・6月 GH+CH交流会
ふうりんの集い 健康診断 【友の家】
- ・6月 バーベキュー 【さわらび】
- ・7月7日~7月13日
パリ旅行第二班 利用者4名
- ・7月後半 キャンプA班予定 【あゆみ苑】
- ・7月20日 沼隈特別支援学校終業日 【児童園】
- ・7月 GH+CH交流会
ふうりんの集い
ピアガーデン 【友の家】

パリ旅行 ART BRUT JAPONAISU

~この出来事を誰もが知ってる日本に!~

アートディレクター 櫛野展正

2010年3月、パリ市立アル・サン・ピエール美術館で日本人作家63人による大規模な展覧会が始まりました。当施設からも平野信治さん、橋高博枝さんが選ばれ、私たちは3月19日から25日まで2人の作家と共に渡仏し歴史的な瞬間を体感してきました。

平野信治さんはクレパスを塗りこみ、2005年より絵を描き始めました。最初に描いたのは白塗りの顔にちゃんまげ姿。TVでお馴染みの志村けんが扮するバカ殿の姿でした。以来、幼少期より憧れていた志村けんをモチーフにした絵を描き続けています。

今回、パリ展出演に当たって地元の新聞社から沢山の取材を頂きました。その中で志村けん本人より、「色遣いがいい。変な打算がないからこそ描けた誰にもまねできない作品。こういう形で元気を与えられることに笑いの力のすごさを感じる。続けることが力になる。僕も頑張るから君も頑張ってください」と新聞を通じて初めてメッセージを頂くことができました。彼自身にとって大きな喜びとなったことはいうまでもなく、帰国後に送られてきたサイン色紙を手にした時の嬉しそうな表情は忘れられません。

近年は制作意欲が乏しく、1年以上も絵を描くことから離れていましたが、現在、彼は再びクレパスを手にと驚異的なスピードで描き続けています。アル・ブリュット・ジャポネ展は、彼に大きなプライドを与えてくれました。そして夢への階段を上るように、「志村けんに逢いたい」という彼の願いは少しずつ実現へと近づいています。



度自体を考える良い機会となりました。

「この出来事を誰もが知っている日本に!」、このキャッチコピーが示すように、本展は海外の評価ではなく日本国内で大いに認知されてこそ意義があります。素晴らしい作品を制作するアーティストがたまたまダウン症や自閉症だったに過ぎません。今展をきっかけに「障害」という言葉そのものが社会に肯定的な意味として認知され、障がいのある人の住みよい暮らし実現への足がかりとなることを期待してやみません。



76歳になる橋高博枝さんは、文字とも記号ともつかない独特の様子が画面を埋め尽くし、余白とのバランスが絶妙な作品がパリでも高い評価を受けました。しかし、作品が正当な評価を受け始めたのは、ここ数年のことです。過去の作品に目を向けると、初期の頃の作品は、制作年の不明な作品が多く、作品も折れ曲がっていたりコーヒーのシミがついていたり保存状態も悪いものが多くあります。彼女に限ったことではなく、こうした状況は日本各地の福祉現場で見るとることが出来ます。

日本の福祉現場では、生まれてきた作品に対して、美術を評価できる学芸員ではなく、生活支援員であるスタッフが評価を下し、その行方が決められてきました。施設の建て替えや担当スタッフの配置転換により、作品の行方が分からなくなっている例は少なくありません。福祉現場スタッフにとって、それまで落書きやゴミとしか思われていなかった「なんだかよく分からないもの」は、海を渡りパリの美術館に展示されると、途端に白手袋をはめた学芸員によって扱われる美術品へと変わりました。

さらに今回の出展において、契約内容の理解、判断が困難な作家について、成年後見人制度の利用が出展についての必要条件とされました。

このことは、施設としても今後、作品の取り扱いについて、また制



あとがき

桜の花びらも散り暖かい季節が訪れようとしています。さくらまつり・園遊会も楽しく無事終えることができました。ありがとうございました。

新たな年・新たな職員を迎え、そして、新たな気持ちと共に今年度も「創樹」を盛り上げていこうと思います。よろしくお祈りします。

(編集委員一同)